Ｄ町１丁目では、住民間の防犯まちづくりに向けたネットワークは十分機能していると考えられるため、今後地域内の事業所や自治体との連携の強化が、犯罪発生や不安感の低下につながるものと考えられる。

５ E町2丁目

Ｅ町２丁目は、一戸建ての持ち家よりは集合住宅が多い住宅街の町丁目であり、居住年数も比較的短い者の割合が多い。調査対象者の自治会活動への参加は全般に消極的で、地域への愛着も薄い。しかし所轄担当官によると、このＥ町の自治会は非常に積極的な活動を行っており、居住年数の長短によって、自治会参加やコミュニティ意識に差があることが指摘されている。

治安関連の指標についてみていくと、侵入盗や性犯の認知件数が多い。そのほか、ちかんの不安感も他の町丁目に比較して高くなっている。また、暴行やバンダリズムの自己報告被害や伝聞があるとした者の割合が比較的高い。実際、町丁目内の自治体管理の公園には、**図４－５－１**のようにバンダリズムがみられる。この公園はＤ町の公園とは異なり、明るく開放的で監視性に優れている。遊具も多く、周辺に居住する子供達によく利用されていることから、管理者による定期的な介入が期待される。

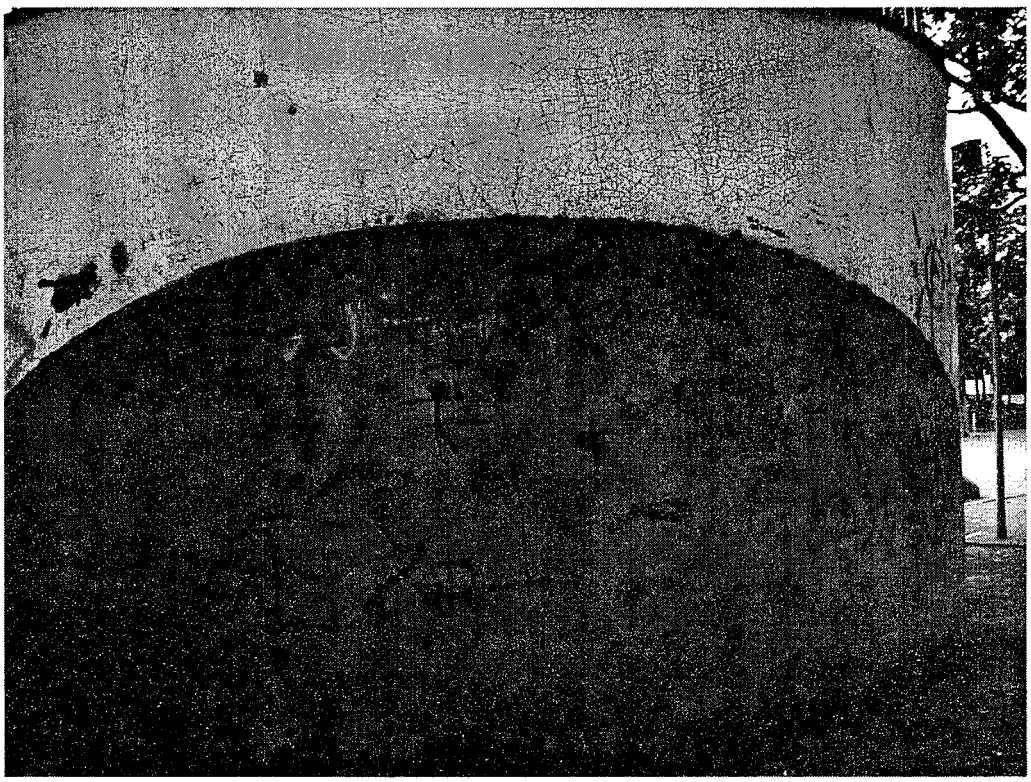

図4－5－1　E町2丁目(1)

図4－5－2　E町2丁目(2)

居住環境の評価については、図4－5－2にみられるように、植栽の管理が不十分な場所があることが指摘されている。特にこの撮影された地点では自転車の放置もみられるため、居住環境のコントロールが低下していることが懸念される。住民調査の対象者も警察への事件情報の通報意欲は高い上に、E町では地域安全活動が盛んに行われており、現在地域安全活動に参加していない住民を積極的に取り込んで、活動をさらに活性化させていく試みが待たれる。

6　F町1丁目

F町1丁目は、駅（A町1丁目とは異なる駅）のある町丁目に隣接しているが、集合住宅は少なく、一戸建ての住宅が中心となっている。調査対象となった住民は、地域諸団体の役職経験は多いものの、地域への愛着は比較的薄い。また近所で地域の安全について話題になることは少なく、不審者を認めたとしても、警察に通報したり近所に注意を喚起したりしないとする者の割合が高い。

治安関連の指標については、空き巣・忍び込み・子供への声かけ・ちかんの不安感が大きい。また、侵入盗やひったくりの人口比認知件数が多い。ひったくりについては、図4－6－1（カラーの図は巻末に添付）に示したとおり、町丁目の西側に犯罪の多発地域（ホ